

令和6年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書（0歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求 ～戸外で自然物に触れる中で、手触りや温度に気づく～

<テーマの設定理由>

戸外で目にしたものや触れたものを不思議そうに見つめたり、感触を味わっている姿をもとに、他の自然物に触れてみたい思いや踏むちぎるなどの活動で変化する自然物の様子や音を感じようとする思いを問いとして設定し、探究につなげていく。

2. 活動スケジュール

- ・園庭や散歩先などで、自然に触れられる機会を作る。
- ・季節に応じた自然物を集める、触れる、踏む、ちぎることで、関心を抱いたものを観察ケースに入れてみる。
- ・自然物を用いての遊びの広がりを楽しめる空間を作る。
- ・自然物を身近に感じられるように、制作したものなどを室内に飾る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・散歩で集めてきたどんぐりや枯れ葉などの自然物
- ・散歩に出かけた際に触れた自然物を室内に用意する。
- ・凍った水たまりを見つけてこどもたちが興味を持ったタイミングで、保育者が踏んだり、手に取って触れるように見せたりしていく。
- ・事前に氷を作っておき、園庭遊びの中で氷に触れる機会をつくる。
- ・散歩先で集めた柿の種を観察するための透明な容器
- ・園庭に広がったいちょうの葉を安全な場所に出来るだけたくさん集めておく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・散歩に出かけた際に触れた自然物を室内に用意し、保育者と共に触れてみる。
- ・自然物を使った装飾を作り、生活の中でも自然を身近に感じるよう促す。
- ・凍った水たまりを見つけてこどもたちが興味を持ったタイミングで、保育者が踏んだり、手に取って触れるように見せたりしていくなかで、音や感触を感じる。
- ・散歩先で見つけて触った柿の種の写真を見せつつ、容器に入っているのが柿の種だと伝え、みんなで観察をする。
- ・こどもが葉っぱの存在に気が付いた姿から、沢山の葉を見つけてどう感じ、手にするのか。安全な場所でたくさんの葉を用意する中で伸び伸びと手にできるようにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・氷に気づいた子は、保育者にちょうだいとアピールをして、氷を渡すと「(つめ)たい」と言葉を発しながら楽しんでた。他にも「ちょうだい」と言って氷をもらいにくる子や氷をトレーに乗せて持ち運んでいる姿が見られた。

手が段々と冷たくなってくると、保育者の手にのせようとする姿もあった。

・興味のあるものにすぐに触れることができ、楽しみを広げられる環境を用意することで、子供たちの目が輝いていた。保育者とともにイチヨウの葉を体にかけてみたり、握りしめたりするこどもの様子を見て、他児も興味を持ち、安心して触れていた。

・容器に入っている柿の種に強い興味を示し、保育者と一緒に眺めたり、振って音を鳴らしていた。

保育者が柿の写真を指差しながら「これが柿だよ」と伝えると「かき」と真似して言っている姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・散歩にて見つけた枯れ葉やどんぐりを集めることを楽しみ、保育園に帰ってからも、じっくりと触れて感触を味わえた。クラス内といういつもの場所で安心して触れることで葉っぱの崩れる様子やちぎれる様子も体験できたと思う。

・氷の存在に気づき、保育者と一緒に触れることで、初めてさわる子も、抵抗が少なく感触を味わえたのではないかと思う。氷の割れる様子、触れると冷たいことに気づくと、友達にも渡したりと、楽しさを共有しようとする姿もあった。その後の遊びに取り入れて、友達と氷の様子の変化を楽しんだり、活動を広げられた。

・自然物の写真からイメージを思い出すなど、自然物との触れ合いを振り返ることで、楽しかったことや感じたことを思い出している様子があり、今後の生活の中で生きるのではないかと思う。

令和 6 年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（1 歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求
五感をつかって落ち葉に親しみ、遊びの幅を広げる。

<テーマの設定理由>

園庭や散歩先にある自然物にこどもたちが興味を持って発見を楽しむ姿があり、収集した自然物で遊ぶことで、より遊びの幅が広がることを問いとして設定していった。

2. 活動スケジュール

- ・園庭や散歩先で落ち葉や木の実に触れ、収集を楽しむ。
- ・色や形のちがいに気づき、興味関心を深めていく。
- ・落ち葉の上に寝転がったり、落ち葉を抱えて放るなど、全身を使って落ち葉遊びを経験する。
- ・落ち葉や木の実を使って、食事に見立てて遊ぶ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・自然物が豊富な環境の公園に散歩に向かう。収集用の袋を用意する。
- ・落ち葉、どんぐり、木の実、畑で育てている野菜の葉の一部をもらう。
- ・銀杏の落ち葉をコンテナ1つ分集め、こどもたちのよく遊ぶ砂場に用意しておく。
- ・自然物をお皿に盛ってみるなど、普段の食事に見立てる遊びを担当が提案していく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・落ち葉を見たり触れたりし、素材遊びを楽しむ。
- ・「きいろ」「あか」「みどり」と一枚ずつ落ち葉をみくらべて色のちがいに気づき言葉に出して周りと共有する。
- ・落ち葉を腕いっぱい抱えてみたり落ち葉の山に寝てみたりと全身をつかって落ち葉に触れることを楽しむ。
- ・お皿に盛ったり、型抜きに刺してみたりして自由に食材に見立てることを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・色づいた銀杏の並木を見て「ぎんなんの匂いがするんだよね」と知っていることを話す。
実際に葉の匂いを嗅ぐと「くさい」と顔をしかめていたが、担任が落ち葉を手にとって破って見せると「千切れた」と喜び、手指を動かして自分でも破っていた。
・落ち葉を自ら千切って盛り付け「サラダができた」「こっちはスープ」と普段の食事に見立てることを楽しむ。他の食事にも見立てられないかと担任が葉っぱを型抜きに刺してみるとロウソクに見えたようで「ケーキだ」と喜ぶ。みんなで誕生日の歌をうたい、こどもの名前を呼んでお祝いすると火を吹き消す真似をして「もういっかい」とごっこ遊びの雰囲気を楽しむ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

葉っぱや木の実を手にとって発見した喜びを保育士や友達と伝え合い、遊びにつなげていく姿があり、こどもたちは宝物を見つけたように目を輝かせていた。
落ち葉という素材がままごとに登場したことで、遊びの幅が大きく広がっていった。身近な食事に見立てていくなど、自由に想像をふくらませながらままごとの世界観を味わえるようにしていきたい。今後も様々な自然物に触れて興味・関心を広げていきたいと思う。

令和 6年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（2歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求～身近な自然の色や形のおもしろさに触れる～

<テーマの設定理由>

園庭の他に近隣の公園や畑等で季節の自然物にふれる機会が多く、身近な植物や昆虫に興味を持っている。その中で色や大きさ、形などの違いに気付く姿があったため。

2. 活動スケジュール

- ・11月頃に散歩先で季節の自然に触れる機会を作り、木の実や葉などを集める。集めた自然物を普段から楽しんでいる砂場でのごっこ遊びや制作に取り入れられるように環境をデザインしていく。
- ・色づいた葉などをイメージできるように絵の具を使って色への関心を広げる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・集めたものを入れられるケースを用意する。
- ・身近な自然物の色などを再現できるような画材、画用紙やカップなどの素材や道具を準備する。
- ・形の違いに気付けるよう、スロープや並べられる盆なども用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・散歩先でドングリ拾いを楽しむ中で、自然に興味をもてるよう促す。
- ・砂場の中に、一つの道具として散歩で拾ってきた自然物を用意し、山づくりやままごとなどの遊びの中で取り入れられるようにする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ドングリの大きさの違いに気付き、担任が大きいドングリを「これはお父さんドングリかな」と言うと「小さいのは赤ちゃんドングリ」「こっちはお姉さんドングリ」と大きさを比べて楽しんでいた。
- ・細長いドングリの中に丸い形のドングリがあることに気付き、「このドングリは何かな」と考える姿があった。「違う種類なのかな」と担任が問いかけることで、「他には仲間がないのかな」といろいろなドングリを見比べてみる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 普段の遊びに取り入れたことで、散歩先で拾っていた時よりも大きさや形の違いに敏感に気づく姿があった。お父さんなど身近なものに担任が例えたことで、こども達も自分で例えたり、見立てたりしていた。ドングリからこども一人一人のイメージが広がっていく様子が分かったため、より豊かに表現して楽しんでいるような関わりをしていきたいと感じた。
- ・ じっくり観察する楽しさを感じ、イチヨウの葉など他の自然物への興味にも繋がっていった。その中で色や形の違いにも自ら気づき、保育者に伝えようとしていた。こどもの探求心に寄り添うことでさらに興味も深まっていくと気付いた。

令和 6 年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（3 歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求 ～植物・虫との出会い～

<テーマの設定理由>

- ・園庭遊び中にみつけた虫を捕まえて飼育ケースに入れて様子を見ていたところから虫への興味が広がっている。
- ・野菜を育てることに興味を持って成長を楽しみにしている。

2. 活動スケジュール

- ・スナップエンドウを育てる
- ・虫探しをする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・スナップエンドウのプランターに水やりをしやすいよう、じょうろを用意する。
- ・虫探ししやすいようにスコップやカップを出しやすいところに置く。
- ・虫の観察がしやすいように飼育ケースを用意する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・葉っぱの様子を観察し、なぜ穴が開いているのかを考察していく。
- ・スナップエンドウの葉っぱに穴が開いていることに気づき、虫が食べたと仮定して、土の中にいる虫を探す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・「葉っぱに穴があるね。」「これは何だろうね。」という保育士の問いかけに「虫さんが食べちゃったんじゃないか。」「先生が食べちゃったんじゃないか。」と様々な考えをめぐらせていた。
- ・ここには虫がいるのかもしれないという考えのもと、土を懸命に掘って探そうとし、他児にも知らせる協力を仰ぎ、シャベルを渡して一緒にやろうと誘っていた。
- ・「どんな虫が食べたのかな」と保育士が問いかけていくと「幼虫じゃないかな」と話す子もいた。
- ・土を遠くまで飛ばしてしまうほど夢中になって掘る子もいた。興味や関心が芽生え、意欲的に虫探しを楽しんでいた。
- ・探す中で、「いないね」となかなか出てこないことに気づいたり、幼虫を発見し喜び「なんの幼虫かな」と疑問に思ったりしていた。
- ・見つけた幼虫を観察し、「かわいい」と話して幼虫に愛着をもって掌にのせて触れ合っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・考える力の育ちが促されていく様子がみられ、想像力を豊かにしていると感じ、さらに自分たちで探したいという気持ちから意欲や探究心が芽生えていた。
- ・冬の季節の中で、虫に出会うことが難しくなっていることに気付いたこともあり、冬の間の虫の様子について調べていく機会に繋げていくことができると感じた。
- ・発見した幼虫をどうしていきたいか皆で考える機会に繋げていくことで興味が広がっていき、愛着をもって育てていくなどの昆虫へのかかわり方の学びにも繋がっていくのではないかと思う。

令和 6 年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（4 歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求～虫に興味を持つ～

<テーマの設定理由>

- ・ 昆虫を探し見つける喜びや興味関心を深める。
- ・ 自分の目で見たり、絵本や図鑑を使用したりしながら昆虫について興味関心を深める。

2. 活動スケジュール

- ・ 虫を探す
- ・ 図鑑を見て調べる
- ・ 散歩先での発見を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 図鑑
- ・ 画用紙
- ・ 色鉛筆
- ・ 散歩バッグ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 園庭で虫を発見し観察した。
- ・ 虫を探しに散歩に出かけた。
- ・ 虫かごやバケツを使って発見した虫を捕まえて観察したり、様々な虫を図鑑で調べてみたり、図鑑を見て虫の絵を描いたりした。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 日頃から見ていた虫を友達と一緒に改めて図鑑で見、虫の顔や体の作りをじっくり見ていた。
- ・ 身近なアリやダンゴムシを図鑑で探す中で、カブトムシやクワガタを見つけ、「この虫知っている」「カブトムシの仲間ってこんなにいるんだ」とつぶやいていた。また図鑑を見ながら1番興味のある好きな虫を絵に描いていた。図鑑に写っているカブトムシの色を色鉛筆を使用して再現していた。
- ・ 散歩先の公園で穴を発見し「アリの穴かな？他の虫の穴かな？」と虫によって穴の大きさが違うと想像しながら考察した。友達と伝え合いながら友達の考えも聞き、学びを深めていた。公園で虫が見つからず「バッタやカマキリは緑で葉っぱと同じ色だから見つけられないのかも」と、自分なりの考えを基に探求した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・虫への興味から草花などの自然物にも興味が広がり、見つけた自然物も図鑑で調べる中で探求心や思考力がたくさん育ってきた。
- ・発見したものを「図鑑で調べてみよう」と自ら発信し、喜びや気づいたことを友達や保育士等と伝え合う姿が増えてきた。
- ・図鑑を見ながら虫の絵を描き、よく観察することで、絵で表現する力もついてきた。
- ・こどもと一緒に観察や図鑑から体の色や足の数など虫ってこうなっているのだと新たな気づきや不思議さを知った。
- ・こどもの興味関心を広げ、疑問を一緒に考えていきたいと思った。

令和 6 年度 とうきょう すくわくプログラム活動報告書（5 歳児）

施設名	小平市立小川西保育園
施設所在地	小平市小川西町5-13-22

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然の探求

<テーマの設定理由>

食育活動を通して取り組んできた中で、種からの生育や植物に関心を持った。周辺環境に自然豊かな場所も多く、植物の生育や組織などにも興味を深めるため。

2. 活動スケジュール

- ・ブロッコリーを育てる。
- ・冬の自然に触れる。
- ・散歩などを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・虫眼鏡やカメラ、顕微鏡、模造紙などを用意する。
- ・畑の野菜や林などの植物を虫眼鏡や顕微鏡で観察したり触ってみたりして探究する。
また、遊びに取り入れながら身近な植物に触れることを楽しむ。
- ・探究活動の様子を動画や写真撮影で記録する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・霜柱に気付き、踏んでみたり触ってみたりする。冷たさなどの感触に気付く。
- ・霜柱や氷ができる不思議さを知り、どうしたら氷ができるか、どこに出来るのかを考える。
- ・冬の野菜（ブロッコリー）を育てながら、生長や変化に興味を持つ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・築山に霜柱ができていることに興味を持って踏んだり手で触ってみたりして「冷たい」と感触を喜んで

いる。
・「ここにもある」「こんなところにも」と築山以外のところにも霜柱があることに気づき、触れて楽しんで

いる。「水のない築山からどのように霜柱ができるのだろう」と問いかけると、「地下水じゃない?」「下水道じゃない?」と言う声が聞かれた。

また、ブロッコリーの水やりをしていた男児が、葉の上に氷ができていることに気が付き、他の子にも知らせていくことで、興味を示して観察をしていた。

・氷を見た女児が、氷を作ることに興味を示したため、カップなど個々が考えたものを使えるようにすると、他の子も「やってみよう」と興味を示して水を入れていた。気温が低い日が続いたが、翌日以降、氷はできなかった。一方で、バケツに溜まった雨水が凍っていることもあり、不思議さを友達や保育士達と共感するようになった。

また、顕微鏡を用意し、霜柱や氷を拡大して見られるようにした。顕微鏡で見ることで、霜柱は本当に柱の形をしていることが分かったり、氷は小さな氷の粒が多く見えることを知ったりした。また、「氷は地下水からできるのではなく、地面や空気の中の水が凍ってできるらしい。」など、様々なことを絵本などから知ることができる機会を作っていくことで、興味や関心を広げることができた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

寒くなってからでき始めた霜柱に子どもたちが興味を持った。触ったり遊びに取り入れたりして興味や関心を広げていたため、一緒に触れる中で、「どのようにできるのだろう?」と問いかけていったところ、子どもたちなりに考えていた。

霜柱ができる過程については調べながら一緒に学んでいくようにした。霜柱と同じように、氷がどのようにできるか興味を持てるように問いかけようと思っていたが、子どもからの発信があり次の活動に繋げていくことができた。「日陰に置くと良いよ」という子どもからの提案を実行してみたものの、翌日氷はできていなかったという残念な場面もあったが、「またやってみよう」、「ブロッコリーなどの葉の上にはどうしてできたのか」といった更なる疑問や気づきにも繋げていくことができた。

この活動を通して栽培している冬野菜が寒さに強いことなどを知り、より身近に感じる良い機会になった。氷を顕微鏡で見た時に、細かい氷が集まってできたものだと知った。他の自然物も、どのようにできているのか観察してみたい、という意欲を持ち、様々な物を見て、発見を楽しむことができた。